

保育学生に求められる「豊かな感性」とリトミック教育の可能性

鈴木 恵津子
(鎌倉女子大学)

I 研究目的

近年、若い世代の自然やものに対する無関心・無感動、人間関係の希薄化が、社会問題となっているが、保育の現場でも同じようなことが起きている。つまり、若い保育者の中に、表情が乏しく、子どもの心に共感できない者、また、自分の考えを相手にうまく伝えられずにトラブルを起こす者が、増えてきていると言うのである。これらの問題点は、そのまま、保育学生にも当てはまるであろう。他人とのかかわりを躊躇し、自分を語ること、表現することを避けているように思えるのである。しかし、一方では、自我が強く、他人から認められたいという欲望は、かなり強いように感じられる。したがって、適切な指導、刺激を与えれば、内なる感情を表出させることができるのではないかと。自己を開放することによって、自身を知り、同時に、自分と異なる他人に気付き、互いの存在を理解できるようになると考えるのである。他人の心に気付き、他人とうまくかかわれる力、応答できる力を持つことは、保育学生にとって不可欠なことである。

本稿では、保育学生の資質向上に向けて、「豊かな感性の育成」という視点から、リトミック教育の有効性について考えてみたい。

II 方法

「保育内容研究・表現」の講義の中で、リトミックを経験した学生に行った質問紙によるアンケート調査結果を基に考察する。

対象者 児童学科3年生 141名

春semester (2003年4月～7月)「表現」の授業をすべて終えてからアンケート調査を行った。

III 結果と考察

質問1 「リトミック教育によって、音楽的能力の他に、どのような能力、心情を育成できると思いますか。有効だと思う順に番号を付けてください。(同等と思うものには、同じ番号をつけてもよい。例：1,1,1,2,……)」

結果 最も有効であると考え、番号「1」と記入された項目のみを集計した(表1)。%の小数点以下は四捨五入した。

考察 「自己表現力」を1位に挙げた者が最も多く107名(76%)であった。次に、「想像力」の99名(70%)、「創造力」74名(52%)と続き、半数以上の学生が、この3項目を1位に挙げたことになる。次に、「心の開放」「コミュニケーション能力」を1位に挙げた者が3割を超えた。「その他」は1位ではなかったため、表には示されていないが、7名が「身体(筋肉)のコントロール能力」を意味するものを挙げていた。

(表1)

リトミックを通して育成される能力・心情 (141名)

自己表現力	107名(76%)
想像力	99名(70%)
創造力	74名(52%)
心身の開放	52名(37%)
コミュニケーション能力	49名(35%)
協調性	21名(15%)
集中力	10名(7%)
機敏性	9名(6%)
記憶力	2名(1%)
その他	0名(0%)

* 複数回答であり、%は出現率である。

質問2 「その他、リトミックについての感想、意見等、自由に書いてください。」

結果 (表2)は、主な感想である。記入者のニュアンスを崩さぬように、誤字・脱字の訂正を除き原文どおり記述した。

考察 回答には、「質問1」の項目を基にした感想が多かったが、心の開放、自己発見、自己表出、自己表現、に関する驚きや喜びの記述が最も多く見られた。また、自分とは違う他人の表現を面白いと感じたこと、普段あまり話したことがなかった友人とのコミュニケーションが持ったこと、等の新しい発見や出会いに関する記述もあった。

(表2) リトミックを体験して思うこと (抜粋)

- ・音楽に合わせて動くことや、表現することが、こんなにも楽しいとは思わなかった。開放感もあったし、楽しくて、常に笑顔でいられたと思う。
- ・イメージした動きに、ピアノで音楽が付けられると、本当に想像の世界が広がり楽しかった。
- ・自分と違う他の人の表現が、いろいろあり、おもしろかった。
- ・音楽にあわせて自由に身体を動かす楽しみを知り、おもしろかった。開放的な気持ちになった。
- ・自分を出すことが苦手だったが、徐々に、積極的に自己表現ができるようになり、驚きと同時に、喜びを感じた。音楽の違いを表現するには、それを感じる感性が必要だと思う。子どもの豊かな感性を養うためにリトミックは良いと思う。
- ・自己開示が大切だと思った。
- ・自分でやってみて、想像力が膨らむし、周りの人達とのコミュニケーションもでき、協調性も育まれると思った。他の人とも体の触れ合いができるし、音楽に合わせて自由に自分を表現できるところが良いと思った。また、聴く耳を育てることができる。
- ・自分の思うままに、全身で表現して、それを友だち同士で楽しむことによって、気持ちが軽くなったような気がした。ストレス解消にもなった。
- ・初めは、恥ずかしさが先行して、気持ちを素直に表現することができなかったが、やっているうちに、その中にのめり込んでいる自分に気が付いた。
- ・音楽によって、自分がこんなに違う表現ができるとは思わなかった。とても新鮮な気持ちで臨めた。
- ・自由に表現する楽しさや、想像するおもしろさを知ることが、子どもにとって、とても大切なことである。同時に、感性の面でも良い影響を及ぼすと思う。
- ・一度、自分を表現する楽しさを知ると、とても伸び伸びとでき、おもしろかった。
- ・初めは、体を動かして表現することは、少し恥ずかしいと思っていたが、やっているうちに、心が開放的になり、授業が終わるとスッキリした気分になった。ストレスの発散になった。
- ・私自身を表現することが、こんなにも楽しいものとは思わなかった。初めは緊張していたのに、気が付くと、体全体を使って、楽しんで表現している自分に驚いた。心が開放されるということをもって体験できた。

IV. まとめ

筆者は、保育者養成においては、リトミック教育を「人間教育」として位置付け、学習指導を行っている。それゆえに、学生たちの自由な意見や感想も、音楽的成長に関するものよりは、人格形成におけるリトミックの役割について述べたものが多かった。

また、学生の中で、一見、無表情で表現力が乏しいと感じられる者も、多くが自己表現の大切さと、リトミック活動の楽しさを述べていた。うまく自分を表現できないという、自己の欠点を知り、リトミックを通して、少しずつ開放されていく自分を感じ取っていたのである。その中の1人は、リトミック活動のように、自由に自分を表現できる環境は、子どもの頃から与えられるべきであり、豊かな感性を育成するために大変有効であると語っていた。そして今、その学生は、幼稚園教諭を目指して、リトミックの講習会に通い、自己表現力を養おうと努力中である。

筆者は、リトミック教育の軸に、音楽的能力の育成があることに異議を唱えるつもりはない。むしろ、ピアノ学習においても、リトミック教育を取り入れ、リズム感、フレーズ感、ダイナミクス感、等の音楽の基礎的技術向上で、確かな成果を得ていると考えている。しかし、リトミックが、音楽技術向上のための手段に偏らぬように、注意が必要であろう。つまり、音楽の専門養成機関で無い限り、音楽活動は、第一に、楽しいものでなくては意味が無いと思うのである。そして、保育者養成においては、決して音楽嫌いな学生を育ててはならないと思っている。子どもの心の成長に、音楽が如何に大切な役割を果たすかについては、ここであらためて言及しないが、音楽が嫌いな保育者の下では、子どもが音楽を楽しむはずかないのである。

そこで、想像力、創造力を養い、自己表現力を高め、豊かな感性を育てる、人間教育としてのダルクローズ・リトミックの導入は、学生の音楽的成長と同時に、保育学生の資質を高める上で大いに意義深いものと考えているのである。